

令和5年11月1日

伝統芸能に御関心のある
ロータリークラブ会員の皆様

新潟ロータリークラブ会員
高橋 秀樹

【お報せ】

新潟ロータリークラブ後援による社会奉仕事業
「平家琵琶貳佰句通語聴會」

拝啓 時下益々御清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、此度、新潟ロータリークラブの御後援により、「平家琵琶貳佰句^{とおしがりちょうえ}通語聴會」を、約1年半にわたって行うことになりました。この事業は、**消失の危機に瀕した伝統芸能の保存、継承、一般公開を行う**ことにより、**社会に奉仕する**という意義を有します。

新潟ロータリークラブ会員安藤栄寿様の真宗大谷派隣陀山勝樂寺様を会場とし、新潟ロータリークラブ会員高橋秀樹（前田流平家琵琶鈴木孝庸門下演誦者）が演誦を行います。

本年11月21日（火曜日）15:00から第1回を行い、以後、毎週火曜日15:00から、計61回開催する予定です（参加費無料。年末年始、年度末年度初め、盛夏期間は事前にお報せの上お休みします）。なお、本事業は新潟大学人文学部からも後援を得ております。

事業内容について裏面をご覧の上、ご都合のよい折に御来場賜り、応援していただけたら幸いです。また、周囲に関心がある方がいらっしゃいましたら、お伝えいただけますと大変嬉しく存じます。

以上、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

敬具

とおしがたりちよう え
平家琵琶貳佰句 通 語 聴 會 事業内容

1 平家琵琶（平曲、平語などとも言います）は、『平家物語』を、専用の琵琶（平家琵琶）の合の手、伴奏によって語る伝統芸能です。

2 この芸能は、13世紀、鎌倉時代に始まり、約800年にわたり継承されてきました。盲人だけでなく、晴眼者も演誦を行います。

3 現在、全200句を継承しているのは前田流だけです。前田流全句の伝授を受けているのは全国に16人いますが、高齢その他の理由のため、演誦活動を行っているのは6、7人のみです。つまり、**消失の危機に瀕している伝統芸能**であると言えます。

4 全句を『平家物語』の順番通りに1人乃至2人の演誦者が公開の場で演誦すること（これを「一部平家」と言います）は、鎌倉時代から室町時代にはしばしば行われたようですが、江戸時代初期以降は行われた記録が無く、1998年に故橋本敏江師が数百年ぶりに復活させました。それ以後、新井泰子師、鈴木孝庸師が実現したことを併せても計4件しか実現事例がなく、**新潟では未だ行われたことがありません。**

5 今回の企画は、**真宗大谷派隣陀山勝楽寺御住職安藤栄寿様の御厚意**で、御本堂その他を会場として使わせて頂くことになり、実現しました。

6 11月21日から**毎週火曜日の15:00**より（厳寒期は事前にお報せの上開始時刻繰上有）、**1年半程**かけて、1回あたり2時間程度の演誦を**61回**実施することにより、『平家物語』**全編を演誦**いたします（会費無料。年末年始、年度末年度初め、盛夏期間は事前にお報せの上お休みします）。なお、第1回目の折には、平家琵琶秘曲の演奏（8分程度）があります。※駐車場利用については、「勝楽寺こども園」の園児保護者の方々の利用時間帯につき、ご遠慮ください。

7 **語りものの芸能の伝統は、それを聴く人と語る人の両方がいることで成立し、継承されてまいります。つまり、聴く人の存在が伝統を支えていると言えます。**演誦の途中からの御来場も、途中での御退席も一向に構いません。また、演誦中、うたた寝を楽しまれるのも歓迎します。

このような企画があることを、たまに思い出して、ご都合の叶うときに、ふらりと御来場して下さるだけで結構です。第200句目の演誦を終えるまで、**息の長い緩やかな応援を賜ることができましたら幸いです。**どうぞよろしくお願い申し上げます。